

就学前親子の子育て不安と居場所ニーズ - A市の就学前親子の居場所に関する質問紙調査より -

八重樫 牧子¹⁾*

1) 新見公立大学健康学部地域福祉学科

(2020年11月18日受理)

親子が安全・安心に過ごすことのできる「就学前親子の居場所」のあり方を検討するために、A市市民協働推進ニーズ調査事業として「就学前親子の居場所に関する質問紙調査」を実施した。0歳から5歳までの子どもがいる2,520世帯（住民基本台帳から無作為抽出）を対象に、郵送調査法（2019年6月7日～6月30日）により調査を実施し、1,275人から回答が得られた（有効回答率は50.6%）。子育て不安と居場所ニーズについては因子分析を行い、因子得点を算出した。本稿では子育て状況、子育てサポート、親子の居場所利用状況等と、子育て不安・居場所ニーズとの関連性について検討した。子育てサポートがあるほど子育て不安は低くなり、親子の居場所を利用するほど居場所ニーズが高くなることが推察された。未就園児には、子ども・親子・親同士の交流ができる居場所が必要である。就園児を持つ親も困難感を抱えており、子育て相談支援等が必要である。（キーワード）子育て不安、親子の居場所ニーズ、子育てサポート、地域子育て支援拠点事業、質問紙調査法

1. 研究目的

核家族化、地域関係の希薄化、少子化等の子どもの育ちや子育てをめぐる環境の変化により、子育てに不安感や孤立感等を感じる人が増えており、子どもの育ちと子育てを行政や地域社会をはじめ社会全体で支援していく必要がある。2015（平成27）年からは、子ども・子育て支援法も施行されている。この法律に基づいて、市町村は「地域子ども・子育て支援事業」を実施している。

A市においても子育ての孤立化が進行している。『平成30年度A市子ども・子育て支援に関する調査報告（概要版）』¹⁾によると、「子育てや日常生活のことを話し合える人がいる」という質問について「はい」と答えた人は、2016（平成28）年度の調査では41.1%であったが、2018（平成30）年度調査では27.5%と13.6%減少していた。今後、地域における子育て・子育て支援を充実していくことが求められるが、このような子ども・子育て支援のひとつとして、「親子の居場所」がある。「親子の居場所」は、地域において就学前親子がいつでも利用することができ、安全・安心して過ごすことのできる居場所になっている。「親子の居場所」としては、市町村など行政が中心となって設置・運営しているもの（市町村が運営を民間に委託しているものも含む）や、NPO法人などが中心となって独自に実施しているものなど、様々な形の居場所がある。市町村が実施している代表的なものとしては、「地域子育て支援拠点事業」（以下、拠点事業と略す）や「児童館」など

がある。保育所を運営する社会福祉法人やNPO法人なども市町村から委託を受けてこれらの親子の居場所を実施している。また、NPO法人などが独自に実施しているものとしては「プレーパーク（冒険遊び場）」や「子ども食堂」などがある。

特に、拠点事業は、就学前親子の居場所として重要な役割を果たしている。この拠点事業は、児童福祉法（第6条の3第6項）に規定されており、子ども・子育て支援法第59条に規定された「地域子ども・子育て支援事業」の一つでもある。「地域子育て支援拠点事業実施要綱（雇発0529第18号）」に、拠点事業の基本事業として、①子育て親子の交流の場の提供と交流の促進、②子育て等に関する相談、援助の実施、③地域の子育て関連情報の提供、④子育て及び子育て支援に関する講習等の実施（月1回以上）が定められている。2019（令和元）年度実施か所数（交付決定ベース）は7,578か所である²⁾。2019（令和元）年4月現在のA市の拠点事業は27か所あるが、12か所の保育所、9か所の認定こども園、6か所の児童館において実施されている。

就学前親子の居場所の利用状況やニーズに関する調査研究については、この拠点事業の利用者を対象としたもの³⁻⁹⁾や、幼稚園や保育所などに子どもを通わず保護者を対象にしたもの¹⁰⁻¹²⁾、1歳半・3歳児健康診査を受けた保護者を対象にしたもの¹³⁻¹⁵⁾、さらに、支援者を対象にしたもの¹⁶⁻¹⁸⁾など数多くある。しかし、就学前の子どものいる子育て世帯を対象に拠点事業を含む親子の居場所に関する調査研究を行っているものは少ない¹⁹⁾。また、市町村子ども・子育て

*連絡先：八重樫牧子 新見公立大学健康学部地域福祉学科 718-8585 新見市西方1263-2

て支援事業計画を策定するにあたって、子育て世帯を対象に保育所等の子育て支援に関する調査が実施されており、拠点事業の利用状況についても調査がなされている。しかし、拠点事業などについてどのようなニーズがあるかなど詳しい調査は行われていない¹⁾。

そこで、本研究では、親子が安全・安心に過ごすことのできるA市の就学前親子の居場所のあり方を検討するために、A市の就学前の子どものいる世帯を対象に、子育て状況や、拠点事業など就学前親子が利用する居場所のニーズ等に関する質問紙調査を実施した。なお、本調査は、今後、拠点事業など就学前親子の居場所のモデル事業を提案するために、「A市民協働推進ニーズ調査事業」²⁾として、A市地域子育て支援課とNPO法人A市子どもセンターの協働で実施した。筆者はA市子どもセンターの会員として本事業に参画した。

なお、各調査項目の基礎集計の結果や、就園状況(就園・未就園)によって違いがあるか検討するために「就園児」「未就園児」に分けて集計・分析を行った結果については、すでに報告した²⁰⁾。また、子ども虐待意識や経験に着目して、子育て状況(就園状況、家族形態、家計状況)、子育て不安、居場所ニーズ等との関連性についても発表を行った²¹⁾。そこで、本稿では、子育て不安と居場所ニーズに着目し、子育て状況(就園状況、家族形態、家計状況)や子育てサポートとの関連性について検討を行う。

2. 研究方法

2-1 調査対象と期間

調査対象は、2019(令和元)年5月現在のA市住民基本台帳から、0歳から5歳までの子どもがいる36,742世帯から2,520世帯を無作為抽出し、同年6月7日～6月30日に郵送調査法により質問紙調査を実施した。1,275人から回答が得られた。有効回答率は50.6%であった。なお、ペアワイズ法による欠損値の削除を行ったので、n数が異なる場合がある。

2-2 調査内容

就学前親子の子育て不安や居場所ニーズ等に関する質問紙調査票を作成した。調査項目は、属性(続柄、年齢など)、家族(世帯形態、人数など)、子どもの就園状況、居住状況(地区、居住形態、年数)、就労状況、家計状況、家族の健康状態、子育てサポート状況、気がかりなこと・心配ごとの種類、気がかりなこと・心配ごとの内容(以下、子育て不安と略す)、就学前親子の居場所のニーズ(以下、居場所ニーズと略す)、体罰等の意識と経験、子どもの生活状況、A市の就学前親子の居場所(地域子育て支援センター、児童館・児童センター、おやこクラブ、子育て広場、公民館、プレーパーク)の認知・利用・希望などであった。な

お、子育て不安については、牧野²²⁾の「育児不安尺度」を参照し、さらにストレス感に関する項目を加えて作成した。居場所ニーズについては、『詳解 地域子育て支援拠点ガイドラインの手引き(第3版)』²⁴⁾の「ガイドラインに基づく自己評価」と、子育て支援者コンピテンシー研究会の『育つ・つながる子育て支援 具体的な技術・態度を身につける32リスト』²⁵⁾を参照して作成した。

また、A市の就学前親子の居場所については、調査用紙を配布する際に同封した挨拶文において簡単に説明し、さらに内容が詳細に分かるようにするために、各居場所にQRコードをつけ、A市の子育て応援サイトやホームページにリンクできるようにした。

2-3 分析方法

各調査項目の基礎集計を行うとともに、就園状況(就園・未就園)によって違いがあるか検討するために、「就園児」「未就園児」に分けて集計を行った。「就園児」と「未就園児」の違い(差)が統計的に意味のある差なのかを検定するためにカイ2乗検定あるいはMann-WhitneyのU検定(以後、U検定と略す)を行った。子育て不安(15項目)と、居場所ニーズ(24項目)については、因子分析(重み付けのない最小2乗法、プロマック回転)を行い、因子を抽出し、各因子の因子得点を算出した。就園状況、家計状況、子育てサポート状況、虐待経験について、これらの各因子得点に差があるかどうか検討を行った。これらの因子得点については、シャピロ・ウィルク検定の結果、正規分布をしていない因子得点があったので、2変数の差の検定はU検定、3変数以上の差の検定はKruskal-Wallis検定を用いた。Kruskal-Wallis検定の結果、有意差があるものについては、ペアごとの比較を行い、Bonferroni訂正により調整済み有意確率を算出し、多重比較を行った。SPSS STATISTICS 27を用いて統計処理を行った。

なお、「幼稚園」、「保育園」、「認定こども園」、「その他の園・施設に通っている」を「就園児」とし、「園や施設には通っていない」を「未就園児」とした。ただし、質問紙調査対象の子どもが「就園児」であり、かつ保護者が「産休・育休中」の場合(対象児以外に産休・育休に該当する未就園児がいると考える)は、保護者のニーズとしては未就園児を持つ保護者のそれに近いと考えるため、「未就園児」に計上した。家計状況については、「黒字であり毎月貯金をしている」を「余裕あり」、「黒字ではあるが貯金はしていない」と「黒字でも赤字でもなくぎりぎりである」を「普通」、「赤字であり貯金をとりくずしている」と「赤字であり借金をしている」を「苦しい」という3カテゴリーにした。

2-4 倫理的配慮

質問紙調査用紙に、質問紙調査の目的、無記名であるこ

と、調査結果は統計的に処理されるので個人が特定されることはないことを明記した。質問紙調査への回答は任意であり、質問紙の回答をもって同意を得たものと判断した。なお、本研究を発表するにあたっては、A市地域子育て支援課とNPO法人A市子どもセンターの了解を得ている。

3. 調査結果B

3-1 主な属性等について

回答者は91.5%が母親であった。親の平均年齢(±標準偏差)は34.8(±5.1)歳、子どもの平均月年齢(±標準偏差)は36.4(±20.6)か月であり、子どもの出生順位は第1子が51.5%、第2子が33.5%であった。就園状況については、就園児が30.4%、就園児が68.8%であった。家族形態は核家族86.4%、三世帯家族8.0%、ひとり親世帯4.0%、その他1.6%であった。居住形態は集合住宅40.2%、一戸建て59.4%であり、回答者(主に母親)の就労状況については、常勤勤務31.1%、就労していない者30.7%、非常勤勤務18.4%、産休・

育休中13.4%であった。家計状況については、「余裕あり」42.8%、「普通」44.3%、「苦しい」12.0%であった。家族の健康状態について健康であると答えた人は、回答者(主に母親)96.5%、子ども98.0%、他の子ども(きょうだい、いない人を除く)81.3%、配偶者(いない人を除く)95.8%であった。

3-2 子育て不安と居場所ニーズ

3-2-1 子育て不安と居場所ニーズの因子分析

子育て不安について分析を行った結果、「孤立感」「ストレス感」「困難感」の3因子が抽出された(表1)。居場所ニーズについては、「子育て相談・支援」「遊び場・遊びプログラム」「子ども・親子・親同士の交流」「福祉サービス」の4因子が抽出された(表2)。それぞれの因子の因子得点を算出したが、点数が高くなるほど子育て不安や居場所ニーズが高くなるように逆転項目の修正を行い、得点の調整を行った。

3-2-2 子育て不安と居場所ニーズの関連性

表3は、子育て不安の3因子と居場所ニーズ4因子のスピ

表 1. 子育て不安の因子分析

	第1因子	第2因子	第3因子
	孤立感	ストレス感	困難感
rq18_11 孤独	.709	-.109	.113
rq18_10 がまんばかり	.698	.061	-.016
rq18_8 自分一人	.639	-.036	.083
rq18_9 毎日同じことの繰り返し	.591	.052	.016
rq18_12 両立困難	.336	.196	.078
q18_3 ゆとり (ゆとりがない)	-.144	.764	.167
q18_13 リラックス (リラックスしていない)	.133	.734	-.175
q18_14 楽しいことをしている (楽しいことをしていない)	.256	.602	-.139
q18_1 目覚めさわやか (目覚めがよくない)	-.096	.534	.149
rq18_6 どうしたらいいかわからない	.151	-.060	.661
q18_5 うまい子育て (うまく育ててない)	-.108	.356	.370
rq18_4 イライラ	.254	-.014	.332
rq18_2 考え事おっくう	.286	.085	.318
寄与率	30.978	7.619	3.726
累積寄与率	30.978	38.597	42.323
Cronbach のアルファ係数	.777	.763	.626
因子間相関行列	第1因子	第2因子	第3因子
第1因子: 孤立感	1.000	.548	.493
第2因子: ストレス感		1.000	.308
第3因子: 困難感			1.000

注 1) 因子抽出法: 重みなし最小二乗法
 2) 回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法
 3) 削除項目: 「子どもをおいた外出心配」「眠れない」
 4) 因子得点を算出するにあたって子育て不安が高くなるほど数値が高くなるように調整を行った

表 2. 居場所ニーズの因子分析

	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
	子育て相談・支援	遊び場・遊びプログラム	子ども・親子・親同士の交流	福祉サービス
rq19_16子育て相談	.836	-.008	-.063	.084
rq19_15子育て講座	.821	-.028	-.074	-.056
rq19_17専門的相談	.768	.021	-.074	.102
rq19_18電話相談	.641	-.115	-.079	.218
rq19_12情報	.588	.258	.034	-.028
rq19_3スタッフとの話し	.490	-.209	.339	.084
rq19_11しつけ支援	.489	.052	.150	.075
rq19_10遊び方支援	.444	.234	.170	-.062
rq19_20遊ぶスペース	-.144	.878	.011	.097
rq19_19遊びやすい場	-.109	.830	-.006	.118
rq19_9遊び体験	-.094	.631	.193	-.077
rq19_22気軽に立ち寄る	.013	.626	-.067	.319
rq19_13子ども向けプログラム	.237	.620	.026	-.223
rq19_21事故・けが・災害等の備え	.135	.590	-.108	.195
rq19_14ふれあうプログラム	.419	.456	-.012	-.227
rq19_7子どもの友達	-.168	.128	.844	.059
rq19_6子ども同士遊ぶ	-.151	.149	.826	.008
rq19_4他の子を見る・遊ぶ	.323	-.133	.489	.024
rq19_2親仲間・友達	.324	-.175	.477	.019
rq19_8子ども親以外関わり	.234	.030	.406	.055
rq19_24妊娠中からの医療	.180	.089	.073	.478
rq19_23子の預かり	.130	.079	.095	.469
寄与率	34.614	8.908	5.327	3.043
累積寄与率	34.614	43.522	48.849	51.892
Cronbach のアルファ係数	.871	.857	.785	.609
因子間相関行列	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
第1因子: 子育て相談・支援	1.000	.456	.528	.243
第2因子: 遊び場・遊びプログラム		1.000	.479	.214
第3因子: 子ども・親子・親同士の交流			1.000	.170
第4因子: 福祉サービス				1.000

注 1) 因子抽出法: 重みなし最小二乗法
 2) 回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法
 3) 削除した項目: 「子どもと一緒に遊ぶ」「子どもをおいた外出心配」「リフレッシュ」
 4) 因子得点を算出するにあたって居場所ニーズが高くなるほど数値が高くなるように調整を行った

表 3. 子育て不安と居場所ニーズの相関

		子育て不安			居場所ニーズ			
		第1因子 孤立感	第2因子 ストレス感	第3因子 困難感	第1因子 子育て相談・支援	第2因子 遊び場・遊び プログラム	第3因子 子ども・親子・ 親同士の交流	第4因子 福祉サービス
子育て不安	第1因子 孤立感	1.000	0.619**	0.641**	0.023	0.006	-0.001	0.117**
	第2因子 ストレス感		1.000	0.403**	-0.043	-0.013	-0.055	0.063*
	第3因子 困難感			1.000	0.090**	0.013	0.006	0.131**
居場所ニーズ	第1因子 子育て相談・支援				1.000	0.563**	0.668**	0.374**
	第2因子 遊び場・遊びプログラム					1.000	0.494**	0.243**
	第3因子 子ども・親子・親同士の交流						1.000	0.314**
	第4因子 福祉サービス							1.000

注) Spearmanのロー ρ **:相関係数は 1% 水準で有意 (両側) * :相関係数は 5% 水準で有意 (両側)

アマンの順位相関係数を示したものである。子育て不安の孤立感・ストレス感・困難感、いずれも居場所ニーズの福祉ニーズと正の有意な相関があった。また、子育て不安の困難感、居場所ニーズの子育て相談・支援ニーズと正の有意な相関があった。しかし、いずれの相関係数も0.2以下であり、なんらかの正の相関はあるが、直接的には相関はほとんどなかったといえる。

そこで、子育て不安や居場所ニーズにどのような要因が関連しているのか明らかにするために、子育て状況(就園状況、家族形態、就労形態、家計状況)や、子育てサポート、さらに、親子の居場所の利用状況との関連性をみていくことにする。

3-3 子育て状況(就園状況・家族形態・就労状況・家計状況)と子育て不安・居場所ニーズとの関連性

表4は子育て状況と子育て不安・居場所ニーズの関連性を見たものである。

子育て不安の困難感については、未就園児より就園児の方

が0.1%の水準で有意に高く、三世代家族や核家族よりひとり親家族の方が5%の水準で高くなっていて、さらに家計が苦しいほど、困難感、孤立感、ストレス感のいずれも0.1%の水準で有意に高くなっていて、なお、ひとり親家庭は、核家族や三世代家族に比べて、0.1%水準で有意に家計が苦しいことも明らかになった(Kruskal-Wallis検定)。

居場所ニーズについてみると、子ども・親子・親同士の交流ニーズは、就園児より未就園児の方が0.1%の水準で有意に高くなっていて、遊び場・遊びプログラムのニーズは、常勤より就労無の方が5%の水準で有意に高く、福祉サービスのニーズは、家計状況からみると5%の水準で有意差があったが、多重比較では有意差は認められなかった。

3-4 子育てサポート

3-4-1 子育てをサポートしてくれる人

表5は子育てサポートについて、子育てに困った時の相談相手、子育てを手伝ってくれる人、子育ての大変さを分

表 4. 子育て状況と子育て不安・居場所ニーズ

因子		就園状況 χ^2	家族形態	就労状況	家計状況
子育て不安	第1因子 孤立感	ns	ns	ns	$p=0.000$ 苦しい・普通>余裕あり
	第2因子 ストレス感	ns	ns	ns	$p=0.000$ 苦しい・普通>余裕あり
	第3因子 困難感	$p=0.000$ 就園児>未就園児	$p=0.013$ ひとり親家庭> 核家族・三世代家族	ns	$p=0.000$ 苦しい>普通>余裕あり
居場所ニーズ	第2因子 子育て相談・支援	ns	ns	ns	ns
	第2因子 遊び場・遊びプログラム	ns	ns	$p=0.020$ 就労無し>常勤	ns
	第3因子 子ども・親子・親同士の交流	$p=0.000$ 未就園児>就園児	ns	ns	ns
	第4因子 福祉サービス	ns	ns	ns	$p=0.033$

注) 就園状況別: Mann-Whitney の U検定

家族形態・就労状況・家計状況: Kruskal-Wallis検定。有意差があるものについては、ペアごとの比較を行い、Bonferroni訂正により調整済み有意確率を算出し、多重比較を行った。

ns: 有意差無

就学前親子の子育て不安と居場所ニーズ

表5. 子育てサポート

	就園別	よくある		時々ある		あまりない		全くない		合計		平均ランク	漸近有意確率 (両側)	有意差		
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%					
相談	パートナー	就園児	471	59.2%	227	28.6%	66	8.3%	31	3.9%	795	100.0%	643.32	0.000	***	
		未就園児	303	68.1%	114	25.6%	22	4.9%	6	1.3%	445	100.0%	579.74			
		合計	774	62.4%	341	27.5%	88	7.1%	37	3.0%	1240	100.0%				
	自分の父母	就園児	325	40.8%	266	33.4%	148	18.6%	58	7.3%	797	100.0%	644.29	0.000	***	
		未就園児	224	50.9%	134	30.5%	54	12.3%	28	6.4%	440	100.0%	573.20			
		合計	549	44.4%	400	32.3%	202	16.3%	86	7.0%	1237	100.0%				
	配偶者父母	就園児	77	9.9%	209	27.0%	246	31.7%	243	31.4%	775	100.0%	618.77	0.065	ns	
		未就園児	42	9.7%	134	30.8%	151	34.7%	108	24.8%	435	100.0%	581.85			
		合計	119	9.8%	343	28.3%	397	32.8%	351	29.0%	1210	100.0%				
	友人・知人	就園児	254	32.0%	359	45.3%	135	17.0%	45	5.7%	793	100.0%	617.88	0.930	ns	
		未就園児	136	30.7%	211	47.6%	73	16.5%	23	5.2%	443	100.0%	619.60			
		合計	390	31.6%	570	46.1%	208	16.8%	68	5.5%	1236	100.0%				
	先生・職員	就園児	138	17.4%	380	48.0%	215	27.2%	58	7.3%	791	100.0%	548.44	0.000	***	
		未就園児	40	9.3%	147	34.3%	122	28.5%	119	27.8%	428	100.0%	723.76			
		合計	178	14.6%	527	43.2%	337	27.6%	177	14.5%	1219	100.0%				
	手伝い	パートナー	就園児	535	67.6%	196	24.7%	35	4.4%	26	3.3%	792	100.0%	629.74	0.081	ns
			未就園児	320	71.9%	101	22.7%	17	3.8%	7	1.6%	445	100.0%	599.88		
			合計	855	69.1%	297	24.0%	52	4.2%	33	2.7%	1237	100.0%			
自分の父母		就園児	340	42.9%	257	32.4%	128	16.1%	68	8.6%	793	100.0%	630.29	0.071	ns	
		未就園児	206	46.7%	151	34.2%	49	11.1%	35	7.9%	441	100.0%	594.51			
		合計	546	44.2%	408	33.1%	177	14.3%	103	8.3%	1234	100.0%				
配偶者父母		就園児	171	22.2%	237	30.7%	173	22.4%	191	24.7%	772	100.0%	617.42	0.089	ns	
		未就園児	97	22.2%	152	34.8%	112	25.6%	76	17.4%	437	100.0%	583.06			
		合計	268	22.2%	389	32.2%	285	23.6%	267	22.1%	1209	100.0%				
友人・知人		就園児	39	5.0%	202	26.0%	255	32.8%	282	36.2%	778	100.0%	614.87	0.375	ns	
		未就園児	29	6.6%	112	25.6%	149	34.0%	148	33.8%	438	100.0%	597.19			
		合計	68	5.6%	314	25.8%	404	33.2%	430	35.4%	1216	100.0%				
先生・職員		就園児	473	62.2%	151	19.8%	87	11.4%	50	6.6%	761	100.0%	470.56	0.000	***	
		未就園児	74	17.5%	76	18.0%	93	22.0%	180	42.6%	423	100.0%	811.87			
		合計	547	46.2%	227	19.2%	180	15.2%	230	19.4%	1184	100.0%				
理解		パートナー	就園児	475	60.1%	210	26.5%	69	8.7%	37	4.7%	791	100.0%	629.78	0.061	ns
			未就園児	288	65.0%	108	24.4%	35	7.9%	12	2.7%	443	100.0%	595.57		
			合計	763	61.8%	318	25.8%	104	8.4%	49	4.0%	1234	100.0%			
	自分の父母	就園児	522	65.8%	200	25.2%	47	5.9%	24	3.0%	793	100.0%	634.83	0.006	**	
		未就園児	325	73.5%	85	19.2%	22	5.0%	10	2.3%	442	100.0%	587.80			
		合計	847	68.6%	285	23.1%	69	5.6%	34	2.8%	1235	100.0%				
	配偶者父母	就園児	354	46.0%	216	28.1%	95	12.4%	104	13.5%	769	100.0%	611.59	0.223	ns	
		未就園児	207	47.5%	135	31.0%	54	12.4%	40	9.2%	436	100.0%	587.84			
		合計	561	46.6%	351	29.1%	149	12.4%	144	12.0%	1205	100.0%				
	友人・知人	就園児	453	58.1%	238	30.5%	54	6.9%	35	4.5%	780	100.0%	613.88	0.415	ns	
		未就園児	264	60.6%	125	28.7%	29	6.7%	18	4.1%	436	100.0%	598.87			
		合計	717	59.0%	363	29.9%	83	6.8%	53	4.4%	1216	100.0%				
	先生・職員	就園児	457	59.6%	231	30.1%	57	7.4%	22	2.9%	767	100.0%	518.32	0.000	***	
		未就園児	145	34.6%	107	25.5%	58	13.8%	109	26.0%	419	100.0%	731.12			
		合計	602	50.8%	338	28.5%	115	9.7%	131	11.0%	1186	100.0%				

注) Mann-Whitney の U検定 ns:有意差無 ** :1%水準で有意差有 *** :0.1%水準で有意差有

かってもらえる人について、「よくある」、「時々ある」、「あまりない」、「全くない」の4件法で質問をした結果をまとめたものである。

相談相手については、「よくある」と答えた人は、全体では、パートナーが62.4%、自分の父母が44.4%と多くなっていた。いずれも未就園児の方が、就園児に比べて多くなっていた(U検定結果)。幼稚園・保育園の先生等は全体では14.6%と少なかったが、就園児の方が未就園児に比べて多くなっていた(U検定結果)。

手伝いについては、「よくある」と答えた人は、パートナーが69.1%、先生・職員等が46.2%と多くなっていた。パ

ートナーについては、未就園児と就園児の間には有意差はなかったが、先生・職員等については、就園児の方が多くなっていた(U検定結果)。

理解(子育ての大変さを分かってくれる)については、自分の父母が68.6%、パートナーが61.8%、友人・知人が59.0%、そして先生・職員等が50.8%と多くなっていた。パートナーについては未就園児、先生・職員等は就園児の方が多くなっていたが、友人・知人には有意差はなかった(U検定結果)。

表6. 子育てサポートと子育て不安・居場所ニーズ

	因子	パートナー	自分の父母	配偶者の父母	友人・知人	教員・職員等	
相談	子育て不安	第1因子 孤立感	$p=0.000$ ④・③>②>①	ns	$p=0.000$ ④>②・①、③>①	ns	
		第2因子 ストレス感	$p=0.000$ ③>②>①	$p=0.014$ ④>①	$p=0.000$ ④>②・①	$p=0.003$ ③>①	ns
		第3因子 困難感	$p=0.000$ ④>①	$p=0.036$ ④>①	$p=0.034$ ④>①	ns	$p=0.000$ ③>②・①、④>①
	居場所ニーズ	第2因子 子育て相談・支援	ns	$p=0.000$ ①>③・②・④	$p=0.014$ ①>④	$p=0.000$ ①・②>③・④	$p=0.000$ ①>②>③・④
		第2因子 遊び場・遊びプログラム	$p=0.028$ ①>②	$p=0.000$ ①>②	$p=0.020$	$p=0.000$ ①>③	$p=0.016$ ①>②・③
		第3因子 子ども・親子・親同士交流	ns	$p=0.003$ ①>②	$p=0.002$ ①>②・③・④	$p=0.000$ ①・②>④、①>③	$p=0.000$ ①>②・③・④
		第4因子 福祉サービス	ns	ns	$p=0.017$ ①>③・④	ns	$p=0.005$ ①>③
	手伝い	子育て不安	第1因子 孤立感	$p=0.000$ ④・②>①、③>④・②	$p=0.000$ ④・③・②>①	$p=0.000$ ④・③・②>①	$p=0.001$ ④・③>①、④>②
第2因子 ストレス感			$p=0.000$ ③・④・②>①	$p=0.000$ ④・②>①	$p=0.000$ ④・③・②>①	$p=0.000$ ④・③>①	ns
第3因子 困難感			$p=0.000$ ④・③>①	ns	$p=0.000$ ④・②>①、④>③	ns	ns
居場所ニーズ		第2因子 子育て相談・支援	ns	ns	ns	$p=0.035$ ①>③	ns
		第2因子 遊び場・遊びプログラム	ns	ns	ns	ns	ns
		第3因子 子ども・親子・親同士交流	ns	ns	ns	$p=0.001$ ①・②>④、①>③	ns
		第4因子 福祉サービス	ns	ns	ns	$p=0.000$ ④>③、①>③	ns
理解		子育て不安	第1因子 孤立感	$p=0.000$ ④・③>②>①	$p=0.000$ ③・②>①	$p=0.000$ ④・③・②>①	ns
	第2因子 ストレス感		$p=0.000$ ③・④>②>①	$p=0.000$ ③・②>①	$p=0.000$ ③・④・②>①	$p=0.009$ ②>①	$p=0.006$ ③>①
	第3因子 困難感		$p=0.000$ ④・③・②>①	$p=0.000$ ③>④	$p=0.000$ ④・③・②>①	ns	ns
	居場所ニーズ	第2因子 子育て相談・支援	ns	$p=0.013$	$p=0.035$ ①・③>④	$p=0.000$ ①・③>④、①>②	$p=0.001$ ①>②・④・③
		第2因子 遊び場・遊びプログラム	ns	$p=0.031$	$p=0.029$	$p=0.000$ ①>②・④	ns
		第3因子 子ども・親子・親同士交流	ns	$p=0.024$	ns	$p=0.000$ ①・③>④、①>②	$p=0.007$ ①>③
		第4因子 福祉サービス	ns	ns	ns	ns	$p=0.031$ ①>③

注) ①:よくある、②:時々ある、③:あまりない、④:全くない
Kruskal-Wallis検定。有意差があるものについては、ペアごとの比較を行い、Bonferroni訂正により調整済み有意確率を算出し、多重比較を行った。
ns:有意差無

3-4-2 子育てサポートと子育て不安・居場所ニーズとの関連性

表6は、子育てサポートを相談相手、手伝い、理解別に、子育てをサポートしてくれる人と子育て不安・居場所ニーズとの関連性をまとめたものである。

3-4-2-1 子育てサポートと子育て不安との関連性

相談相手にパートナーや配偶者の父母をあげている人の子育て不安は、いずれも低くなっていた。自分の父母をあげている人は、ストレス感や困難感が低くなっていた。友人・知人ではストレス感が、教員・職員では困難感が低くなっていた。

手伝いについても、パートナーや配偶者の父母をあげている人の子育て不安は、いずれも低くなっていた。自分の父母や友人・知人をあげている人は、孤立感やストレス感が低くなっていた。教員・職員等とは関連性はなかった。

子育ての大変さを分かってくれることについても同様に、パートナーや配偶者の父母をあげている人の子育て不安は、いずれも低くなっていた。自分の父母や教員・職員等をあげていた人は、孤立感やストレス感が低くなっていた。ただし、自分の父母については、全くないと答え人より、あまりないと答えた人の方が、困難感が高くなっていることについては留意する必要がある。

3-4-2-2 子育てサポートと居場所ニーズとの関連性

相談相手に配偶者の父母や教員・職員等を「よくある」と答えて人の方が、いずれの居場所ニーズは高くなっていた。自分の父母や友人・知人については、「よくある」と答えた人の方が福祉サービスのニーズ以外はいずれも高くなっていた。パートナーと答えた人は遊び場・遊びプログラムのニーズが高くなっていた。

手伝いについて知人・友人を「よくある」と答えていた人は、遊び場・遊びプログラム以外のニーズが高くなっていた。ただし、福祉ニーズについては、「あまりない」より「まったくない」の方が高くなっていたが、「あまりない」より「よくある」と答えた人の福祉ニーズも高くなっていたことに留意する必要がある。

子育ての大変さを分かってくれることについては、パートナーをあげている人については、いずれの居場所ニーズについても有意差はなかった。パートナー以外をあげている人は、いずれも「よくある」と答えた人の方が、子育て相談・支援ニーズが高くなっていた。知人・友人と教員・職員等を「よくある」と答えた人の方は、子ども・親子・親同士の交流ニーズが高くなっていた。遊び場・遊びプログラムのニーズについては、知人・友人を「よくある」と答えた人の方が高く、福祉サービスのニーズについては、

就学前親子の子育て不安と居場所ニーズ

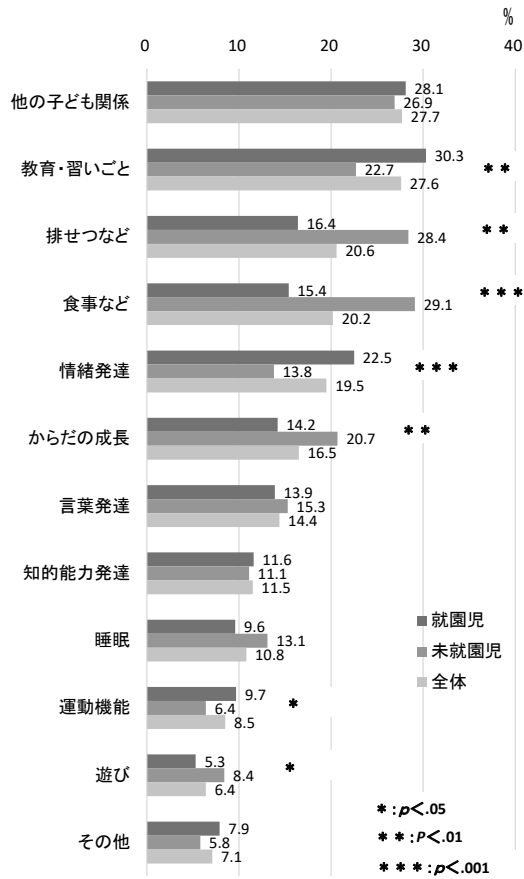


図1. 気がかりなこと・心配ごと

注) 就園児と未就園児について、Mann-Whitney の U 検定を行った。

教員・職員等と答えた人の方が高くなっていった。

3-5 気がかりなこと・心配ごとについて

3-5-1 気がかりなこと・心配ごと

図1は気がかりなこと・心配ごとを示したものである。就園児と未就園児について、Mann-Whitney の U 検定を行った。気がかり・心配ごとについては、他の子ども関係(27.7%)や、教育・習い事(27.6%)が多くなっていったが、特に教育・習いごとについては、就園児が30.3%と未就園児に比べて有意に多くなっていった。未就園児の食事など(29.1%)や排せつなど(28.4%)は、就園児に比べて多くなっていった。情緒発達については、就園児が22.5%と未就園児の13.8%に比べて多くなっていったが、からだの成長については、未就園児が20.7%と就園児の14.2%に比べて多くなっていった。また、運動機能は全体では8.5%と少なかったが、就園児の方が9.7%と未就園児の6.4%と比べると多くなっていった。遊びも全体では6.4%と少なかったが、未就園児の方が8.4%と就園児の5.3%と比べると多くなっていった。

3-5-2 主な気がかりなこと・心配ごとと子育て不安・居場所ニーズとの関連性

表7は主な気がかりなこと・心配ごとの上位にあがっていた他の子ども関係、教育・習いごと、排せつと、子ども不安や居場所ニーズとの関連性をみたものである。

気がかりなこと・心配ごととして、他の子ども関係や教育・習いごとをあげている人は、いずれの子育て不安も有意に高くなっていった。排せつをあげている人は、孤立感と困難感が高くなっていった。

表7. 主な気がかりなこと・心配ごと

		他の子ども関係				教育・習いごと				排せつなど				
		度数	平均ランク	漸近有意確率(両側)	有意確率	度数	平均ランク	漸近有意確率(両側)	有意確率	度数	平均ランク	漸近有意確率(両側)	有意確率	
子育て不安	第1因子 孤立感	いいえ	898	583.59	0.000	***	902	602.24	0.001	***	990	610.43	0.009	**
		はい	349	727.97			345	680.90			257	676.28		
		合計	1247				1247				1247			
	第2因子 ストレス感	いいえ	898	598.29	0.000	***	902	608.72	0.015	*	990	622.06	0.709	ns
		はい	349	690.16			345	663.94			257	631.47		
		合計	1247				1247				1247			
第3因子 困難感	いいえ	898	574.71	0.000	***	902	597.41	0.000	***	990	607.73	0.002	**	
	はい	349	750.82			345	693.51			257	686.68			
	合計	1247				1247				1247				
居場所ニーズ	第1因子 子育て相談・支援	いいえ	879	597.24	0.029	*	882	593.66	0.006	**	963	596.87	0.007	**
		はい	342	646.36			339	656.11			258	663.72		
		合計	1221				1221				1221			
	第2因子 遊び場・遊びプログラム	いいえ	879	599.07	0.058	ns	882	595.47	0.013	*	963	604.29	0.199	ns
		はい	342	641.66			339	651.41			258	636.06		
		合計	1221				1221				1221			
	第3因子 子ども・親子・親同士の交流	いいえ	879	593.38	0.005	**	882	596.23	0.018	*	963	597.06	0.008	**
		はい	342	656.29			339	649.44			258	663.04		
		合計	1221				1221				1221			
	第4因子 福祉サービス	いいえ	879	590.91	0.001	***	882	603.90	0.256	ns	963	595.33	0.003	**
		はい	342	662.64			339	629.47			258	669.48		
		合計	1221				1221				1221			

注) Mann-Whitney の U 検定

ns: 有意差無 ***: 0.1%の水準で有意差有 ** : 1%の水準で有意差有 * 5%の水準で有意差有

表8. 就園状況からみた就学前親子の居場所の認知・利用・希望

		就園児		未就園児		全体		漸近有意確率(両側)	有意差
		度数	%	度数	%	度数	%		
認知	子育て支援センター	657	79.6%	358	79.6%	1015	79.6%	0.227	ns
	児童館	695	84.2%	387	86.0%	1082	84.9%	0.638	ns
	おやこクラブ	635	77.0%	347	77.1%	982	77.0%	0.412	ns
	子育て広場	390	47.3%	244	54.2%	634	49.7%	0.055	ns
	公民館	641	77.7%	346	76.9%	987	77.4%	0.159	ns
	プレーパーク	418	50.7%	193	42.9%	611	47.9%	0.017	*
利用	子育て支援センター	119	14.4%	105	23.3%	224	17.6%	0.000	***
	児童館	216	26.2%	159	35.3%	375	29.4%	0.000	***
	おやこクラブ	45	5.5%	56	12.4%	101	7.9%	0.000	***
	子育て広場	55	6.7%	65	14.4%	120	9.4%	0.000	***
	公民館	143	17.3%	89	19.8%	232	18.2%	0.515	ns
	プレーパーク	159	19.3%	63	14.0%	222	17.4%	0.055	ns
希望	子育て支援センター	366	44.4%	304	67.6%	670	52.5%	0.000	***
	児童館	460	55.8%	319	70.9%	779	61.1%	0.000	***
	おやこクラブ	200	24.2%	203	45.1%	403	31.6%	0.000	***
	子育て広場	314	38.1%	279	62.0%	593	46.5%	0.000	***
	公民館	383	46.4%	261	58.0%	644	50.5%	0.515	ns
	プレーパーク	564	68.4%	335	74.4%	899	70.5%	0.021	*

注) n=1275 複数回答
カイ2乗検定 ns:有意差無 * :5%の水準で有意差有 ***:0.1%の水準で有意差有

居場所ニーズについては、他の子ども関係や排せつをあげている人は、遊び場・遊びプログラム以外の居場所ニーズが有意に高くなっていた。教育・習いごとをあげている人は、福祉サービス以外のニーズが有意に高くなっていた。

3-6 就学前親子の居場所の認知・利用・希望について

3-6-1 就学前親子の居場所の認知・利用・希望について

表8は、A市の就学前親子の居場所の認知、利用、希望に

ついて、全体、就園状況別に示したものである。認知について高い項目順にみると、就園児・未就園児ともに、「児童館・児童センター」、「地域子育て支援センター」、「公民館」であった。なお、プレーパークについては、就園児の方が高くなっていた。

利用については、全体で利用が高い項目は、「児童館・児童センター」、「公民館」、「地域子育て支援センター」であるが、利用数は認知と比べると低いことが分かった。「公民館」と「プレーパーク」の利用については、就園児と未

表9. 主な就学前親子の居場所利用と子育て不安・居場所ニーズ

		児童館				地域子育て支援センター				公民館				プレーパーク				
		度数	平均ランク	漸近有意確率(両側)	有意確率	度数	平均ランク	漸近有意確率(両側)	有意確率	度数	平均ランク	漸近有意確率(両側)	有意確率	度数	平均ランク	漸近有意確率(両側)	有意確率	
子育て不安	第1因子 孤立感	有	370	600.23	0.935	ns	222	592.85	0.681	ns	230	614.53	0.419	ns	219	609.79	0.407	ns
		無	827	598.45			980	603.46			965	594.06			965	588.58		
		合計	1197				1202				1195				1184			
	第2因子 ストレス感	有	370	579.69	0.196	ns	222	551.09	0.017	*	230	546.08	0.011	*	219	550.01	0.042	*
		無	827	607.64			980	612.92			965	610.38			965	602.14		
		合計	1197				1202				1195				1184			
第3因子 困難感	有	370	617.23	0.222	ns	222	626.59	0.233	ns	230	605.94	0.698	ns	219	637.38	0.031	*	
	無	827	590.84			980	595.82			965	596.11			965	582.32			
	合計	1197				1202				1195				1184				
居場所ニーズ	第1因子 子育て相談・支援	有	357	629.30	0.004	**	223	699.87	0.000	***	225	647.85	0.002	**	215	577.98	0.884	ns
		無	815	567.75			956	564.37			947	571.92			946	581.69		
		合計	1172				1179				1172				1161			
	第2因子 遊び場・遊びプログラム	有	357	645.53	0.000	***	223	679.92	0.000	***	225	649.43	0.002	**	215	592.90	0.567	ns
		無	815	560.64			956	569.02			947	571.55			946	578.32		
		合計	1172				1179				1172				1161			
	第3因子 子ども・親子・親同士の交流	有	357	630.86	0.003	**	223	668.23	0.000	***	225	629.93	0.032	**	215	615.73	0.092	ns
		無	815	567.07			956	571.75			947	576.18			946	573.11		
		合計	1172				1179				1172				1161			
	第4因子 福祉サービス	有	357	574.66	0.428	ns	223	639.49	0.016	***	225	572.83	0.500	ns	215	610.54	0.152	ns
		無	815	591.69			956	578.46			947	589.75			946	574.29		
		合計	1172				1179				1172				1161			

注)Mann-Whitney の U検定
ns:有意差無 ***:0.1%の水準で有意差有 **:1%の水準で有意差有 *5%の水準で有意差有

就園児では差はなかったが、他の居場所については、いずれも就園児に比べて未就園児の利用が高くなっていた。

希望については、全体、就園児・未就園児とも「プレーパーク」が最も高いことが分かった。未就園児については、就園児と比べると、A市が行っている事業の内、公民館以外の事業の利用希望が高いことが確認された。

3-6-2 主な就学前親子の居場所の利用と子育て不安・居場所ニーズとの関連性

表9は、A市の就学前親子の居場所として利用していると答えた中で、上位4つ（児童館・児童センター、地域子育て支援センター、公民館、プレーパーク）と、子育て不安・居場所ニーズの関連性をみたものである。

子育て不安についてみると、児童館・児童センターについては利用している人と利用していない人の間には有意差はなかった。地域子育て支援センター、公民館そしてプレーパークを利用している人は、ストレス感が有意に低くなっていた。プレーパークを利用している人は、困難感も有意に低くなっていた。

居場所ニーズについてみると、子育て相談・支援、遊び場・遊びプログラムそして子ども・親子・親同士交流のニーズは、児童館・児童センターや地域子育て支援センターそして公民館を利用していると答えた人のニーズが有意に高くなっていた。地域子育て支援センターを利用している人は、福祉サービスのニーズも高く、すべての居場所ニーズが高くなっていた。プレーパークについては、居場所ニーズについては利用している人と利用している人との間には有意な差は認められなかった。

4. 考察

4-1 子育て状況と子育て不安・居場所ニーズ

4-1-1 就園状況・気がかりなこと・心配ごとと子育て不安・居場所ニーズ

子育て不安の困難感については、未就園児より就園児の方が高くなっていた。居場所ニーズの子ども・親子・親同士の交流ニーズは、就園児より未就園児の方が、高くなっていた。また、気がかりなこと・心配ごとの種類は、未就園児と就園児には有意な差があるものが多かった。気がかりなこと・心配ごとで最も多かったのは、未就園児、就園児とも他の子ども関係であったが、他の子ども関係をあげている人は「いいえ」と答えた人に比べて、孤立感・ストレス感・困難感のいずれも高くなっていた。他の子どもとの関わる機会となる「親子の居場所」の重要性を確認することができた。就園児をもつ子どもの親は、気がかりなこと・心配ごととして、教育・習いごとをあげている人が未就園児より多かったが、「いいえ」と答えた人に比べ、すべての子育て不安が高くなっていた。排泄をあげていた親は、就園児より未就園児が多かったが、孤立感や困難感が

高くなっていた。また、居場所ニーズについても、これらの気がかりなこと・心配ごとをあげている人は、居場所ニーズに多少の違いはあるが、いずれも「いいえ」と答えていた人より居場所ニーズが高くなっていた。

このことから、「親子の居場所」では、未就園と就園児別に、気がかりなこと・心配事に応じた個別な支援、多様な支援が求められていることが推察された。未就園児の親には、子ども・親子・親同士の交流ができる居場所が必要であり、困難感を抱えている就園児を持つ親には、子育て相談支援等が必要であるといえる。

4-1-2 家族形態・家計状況と子育て不安・居場所ニーズ

ひとり親家族は、核家族や三世代家族に比べて子育て不安のうち困難感が高かった。また、家計状況については、余裕のある人に比べ、普通・苦しいと答えた人の方が、すべての子育て不安が高くなっていた。特にひとり親家庭は家計が苦しく子育て不安が高いことが推察される。国民生活基礎調査³⁶⁾によると2018（平成30）年度の子どもの貧困率は13.5%、ひとり親家族は48.1%であった。「子ども食堂」など家計が苦しい子育て家庭の「親子の居場所」を充実・拡大していくことが求められているといえる。

4-2 子育てサポートと子育て不安・居場所ニーズ

4-2-1 子育てサポートと子育て不安

相談相手について「よくある」と答えた人は、パートナー（62.4%）、自分の父母（44.4%）が多くなっていた。手伝いについて「よくある」と答えた人は、パートナー（69.1%）、先生・職員等（46.2%）、自分の父母（44.2%）と多くなっていた。理解（子育ての大変さを分かってくれる）について「よくある」と答えた人は、自分の父母（68.6%）、パートナー（61.8%）、友人・知人（59.0%）、教員・職員等（50.3%）といずれも約半数以上となり、配偶者の父母（46.6%）も多くなっていた。

パートナーや配偶者の父母の相談・手伝い・理解のある人は、いずれの子育て不安も低く、自分の父母によるサポートのある人もストレス感等が低くなっていた。子育てサポートとして、パートナーや自分の父母をあげる人は多いこと、また、彼らの子育てサポートが子育て不安を軽減していることについては、他の研究でも明らかにされてきた^{10) 11) 15)}。本調査でも同様の結果がえられたが、特に配偶者の父母をサポートとしてあげている人は、他と比べると少なくなっていたが、子育て不安の軽減には関連があることが明らかになった。なお、自分の父母による子育て理解については、「全くない」より「あまりない」の人の方が困難感が高いことは、子育ての大変さを分かってくれることにより、かえって子育てに対する干渉が高く、自分の子育てに困難感を感じる可能性があることも推察される。

パートナーや祖父母のサポートは、子育て不安の軽減に影響をあたえることから、親子の居場所においても、パー

トナーや祖父母も参加しやすい環境やプログラムを考え
ていく必要があると思われる。

4-2-2 子育てサポートと居場所ニーズ

子育てサポートとしてパートナーをあげている人が多い
こともあり、居場所ニーズについては、その関わりの方
の頻度との関連性はあまりなかった。しかし、パートナー以外
の子育てサポーターの子育ての相談や理解については、サ
ポートのない人ほど居場所ニーズが低くなる傾向があっ
た。新川⁶⁾は、子育て環境の良くない人ほど、例えば子育て
について家族で語りあえていない人ほど、利用者ニーズ
が低くなっており、このような潜在ニーズには、ソーシャ
ルワーカーなどがニーズの顕在化に向けて働きかけてい
く必要があると指摘している。今後、拠点事業など親子の
居場所の支援者は、アウトリーチなどを行うことによっ
て、子育てサポートの不十分な子育て家庭に働きかけてい
くことも大切になってくる。

4-3 就学前親子の居場所の利用と子育て不安・居場所ニーズ

未就園児も就園児も親子の居場所の認知度は高かった
が、利用はいずれも低くなっていた。ただし、就園児に比
べると未就園児の利用は多くなっていた。しかし、利用希
望は高くなっており、特にプレーパークは70.5%と高くな
っていた。

地域子育て支援センター、公民館そしてプレーパークを
利用している人のストレス感は低くなっており、プレーパ
ークを利用している人は困難感も低くなっていた。また、
地域子育て支援センターを利用している人は、すべての居
場所ニーズが、利用していない人と比べると高くなってい
た。また、児童館・児童センターや公民館を利用している
人も、福祉ニーズを除いた居場所ニーズが高くなってい
た。今後、これらの親子の居場所の認知度を高めるための
情報提供などの拡充を図っていくとともに、居場所ニーズ
に対応するための事業内容の充実を図っていくことが求
められる。

プレーパークの居場所ニーズは、利用している人として
いない人との間には差はなかったが、利用希望が最も高い
ことから、親子の居場所として期待していることが推察さ
れる。A市とNPO法人A子どもセンターの協働事業で実施
された2018年度の「緑の遊び場プロジェクト」の一環とし
て実施された公園での遊び場づくりのイベントの参加者
(保護者)を対象に調査を実施した結果、イベント参加満
足度の高い人は、イベントの参加をきっかけに公園で外遊
びをしたいと思っていることが明らかになった²⁷⁾。今後、プ
レーパークのような外遊びができる屋外型の「親子の居場
所」も必要である。

謝辞

本調査にご回答くださいましたA市の市民の皆様のご
協力で御礼申し上げます。また、本調査の調査票の作成、調
査結果分析とまとめ等にご協力くださいましたA市子ど
もセンターの美咲美佐子さん、窪田昌子さん、久川春奈さ
ん、また、ESD・市民協働推進センターの野崎麻衣さん、そ
してA市地域子育て支援課の職員の皆様に感謝申し上げ
ます。

注

- 1) 「A市市民協働推進ニーズ調査事業」とは、A市とNPO
法人等市民活動団体との協働を推進し、社会課題の解決
を官民協働の手法により進めるよりよい協働事業の促
進のための事業である。本調査事業の目的は、社会課題
を解決する必要性・緊急性、協働事業により解決が図れ
る可能性などについて、具体的に現状を把握し、分析す
ることである。

文献

- 1) A市こども企画総務課, 平成30年度A市子ども・子育て
支援に関するアンケート調査集計結果(概要版), [A市
ホームページ], [2020年8月閲覧]
[https://www.city.okayama.jp/cmsfiles/contents/
0000003/3037/000389701.pdf](https://www.city.okayama.jp/cmsfiles/contents/0000003/3037/000389701.pdf)
- 2) 厚生労働省: 地域子育て支援拠点事業とは(概要), [厚
生労働省ホームページ], [2020年8月閲覧]
<https://www.mhlw.go.jp/content/000666540.pdf>
- 3) 浅井拓久也: 地域子育て支援拠点での子育て支援に関
する研究—拠点利用前後における母親の子育て不安の
変化に着目して—, 秋津学園短期大学紀要, (36), 24-
37, 2019.
- 4) NOP法人子育てひろば全国連絡協議会: 地域子育て支
援拠点の寄り添い型支援が親の成長を促すプロセスと
支援者の役割に関する調査研究(平成30年度子ども子育
て支援拠点事業調査研究事業), [2020年3月閲覧]
[https://www.mhlw.go.jp/content/11900000/
2018houkoku-zentai.pdf](https://www.mhlw.go.jp/content/11900000/
2018houkoku-zentai.pdf)
- 5) 富田道子, 田丸尚美, 深澤悦子, 國清あやか, 須崎朝子,
瀧口美絵, 石橋由美: 広島都市学園大学の地域子育て支
援拠点事業に関する一考察: 「いーぐる」利用者への第
6回質問紙調査から, 広島都市学園大学 子ども教育学
部紀, 5(2), 1-10, 2019.
- 6) 新川泰弘: 地域子育て支援拠点利用者の子育て環境と
利用者ニーズの関連性—ソーシャルワークの視点から
—, 子ども家庭福祉学, (18), 12, 2018.

- 7) 小野セレスタ摩耶：A市地域子育て支援拠点事業の利用者評価-2012年度評価における満足度分析-。厚生指
標, (63), 23-29, 2016.
- 8) 岡本聡子：母親の育児不安解消における地域子育て支
援事業の効果：利用者アンケートを通じた測定と検証。
創造都市研究, 10 (1), 1-12, 2015.
- 9) 中谷奈津子：地域子育て支援拠点事業利用による母親
の変化：一支援者の母親岐南意識と母親のエンパワメ
ントを目指して一。保育学研究, 52 (3), 319-331, 2014.
- 10) 村井博子, 流郷千幸：乳幼児後期の子どもをもつ母親
の育児困難感と育児に対する自己効力感, ソーシャルサ
ポートの関連。聖泉看護学研究, 9, 27-34, 2020.
- 11) 八重樫牧子, 小河孝則, 田口豊郁, 下田茜：乳幼児を持
つ母親の子育て不安に影響を与える要因-子育て不安と
児童虐待の関連性。厚生指標, (55), 1-9, 2008.
- 12) 八重樫牧子：母親の虐待的傾向および虐待的経験との
関連性からみた母親の子育て不安。子ども家庭福祉学,
(3), 11-23, 2003.
- 13) 今井昭仁, 伊藤篤：神戸市の大学等が運営する地域子
育て支援拠点事業の利用状況と展望。神戸大学大学院人
間発達環境学研究科研究紀要, 10 (2) 135-140, 2017.
- 14) 宇都弘美, 川畑由佳子：A市における地域子育て支援
の活用実態と支援ニーズに関する調査。南九州地域科学
研究所年報, (33), 13-18, 2017.
- 15) 八重樫牧子, 田丸尚美, 正保正恵, 平田道憲, 今川真
治：尾道市における子育て支援ニーズに関する調査。福
山市立大学教育学部研究紀要, 3, 123-134, 2015.
- 16) 岡本千晴, 岡田みゆき：旭川市における子育て支援拠
点事業及び子育てサロンの実態。北海道教育大学紀要,
教育科学編, 70 (2), 235-243, 2020.
- 17) 橋本真紀：地域子育て支援拠点事業の実践類型に関連
する要因の検討：地域支援活動を積極的に展開する群
に着目して。教育学論究, (6), 141-151, 2014.
- 18) 中谷奈津子, 橋本真紀, 越智紀子他：地域子育て支援拠
点事業専任保育士の業務内容の定量的分析-保育所併設
型地域子育て支援センター観察調査の試みから。子ども
家庭福祉学, (10), 47-57, 2011-02.
- 19) 小池由佳, 角張慶子, 斎藤裕：少子地域における地域
子育て支援サービスの利用状況に関する研究-A自治
体の子育て家庭の特性との関連に着目して一。人間生活
学研究, (9), 1-10, 2018.
- 20) NPO法人A市子どもセンター・A市地域子育て支援
課, A市就学前親子の居場所」に関する調査報告書,
[NPO法人A市子どもセンターホームページ], [2020年8
月] <http://www.kodomo-npo.jp/>
- 21) 八重樫牧子：A市の地域子育て支援拠点事業の実態と課
題。第73回日本保育学会発表論文集, 2020.
- 22) 八重樫牧子：子ども虐待と子育て不安や就学前親子の
ニーズとの関連性-A市の就学前親子の居場所に関す
る調査より一。[日本社会福祉学会ホームページ], [2020
年9月] [https://www.jssw.jp/event/conference/68-
autumn-info/program-list](https://www.jssw.jp/event/conference/68-autumn-info/program-list)
- 23) 牧野カツコ：乳幼児をもつ母親の生活と〈育児不安〉。
家庭教育研究所紀要, (3), 34-56, 1982.
- 24) 渡辺顕一郎, 橋本真紀編：詳解 地域子育て支援拠点
ガイドブックの手引き (第3版) —子ども家庭福祉の制
度・実践を踏まえて一。中央法規出版, 159-161, 2018.
- 25) 子育て支援者コンピテンシー研究会編：育つ・つなが
る 子育て支援 具体的な技術・態度を身につけるた
めの32のリスト。チャイルド本社, 2009.
- 26) 厚生労働省：2019年国民生活基礎調査の概況。[厚生労
働省ホームページ], [2020年8月] [https://www.mhlw.go.
jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa19/index.html](https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa19/index.html)
- 27) 八重樫牧子：子どもの遊び場づくりの現状と課題—
「緑の遊び場プロジェクト」の参加状況や評価に関する
アンケート調査から一。川崎医療福祉学会誌, 29 (1),
175-189, 2019.